

松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第15回）開催概要

日時	令和6年2月2日（金） 14:00～16:00
場所	松戸市役所 新館5階 市民サロン
出席者	岩本成、植田和宏、影山貴大、河南康広、木内利明、坂野喜隆、 桜井寛樹、武田史朗、谷龍樹、伊東朱美（敬称略）
事務局	松戸市総合政策部政策推進課

1 開会（委員自己紹介）

2 市からの報告

- (1) 松戸市総合計画について
- (2) 松戸市の人口動態について
- (3) 松戸市総合計画 令和4年度 指標の達成状況

3 意見交換

○ 出席者意見

●JR 松戸駅の乗車客数という指標に関連して、新京成電鉄も同じ傾向にあり、コロナ前には戻っていない現状。その理由としては、やはり今、リモートワークがかなり進んでいってしまっていて、定期外は戻っているが定期利用者が戻っていないことの現れであると感じます。

●公共交通に関連して、日本全国でみてもバスの運転手不足の問題が深刻化していて、関西のある事業者は運転手不足が理由で事業が継続できないといった事態が起きている。これは住民にとって非常にマイナスで街の発展に関わるものです。バスの運転手になりたいという人が少ないことが課題。一方でライドシェア解禁の政策が進められているが、安全の部分で、人の命を預かって運んでいるなか、ライドシェアで間口を広げるのはどうなのか、真剣に考えていかなければならない問題です。

●街の魅力に関連して、
松戸の魅力やシンボルは何だろうと考え、取材を進めると、ほとんどの方の最初の答えが「東京に近い」と答えてきて、2つ目の答えが「交通の便」。電車の路線が多くて、交通が良いという内容が多かった印象がある。その他は「子育て世代は待機児童がゼロ」とか、「保育所が比較的多い」「小さい公園がいっぱいあって住みやすい」、「給食も、2人目以降は安くなったりするみたい」という声も聞いたりする。「子育てしやすくなっている」という声も結構ありました。

●雇用経済面に関連していえば、「外国人をどういうふうに雇用するのか」ということは気がかりです。

今後、日本人は増えないと思っていて、他の市、県から移動してきて増える部分はあるかもしれませんが、日本全体の人口が必ず減るなか、国力が下がるという意味では、その外国人の方々とどう上手く付き合っ、人口を維持していくのかというのが大事なことだと思います。

何か労働者的な扱いではなくて、外資の企業誘致ももちろんですけども、外国人の方も安心して働ける環境の整備。外国人の家族がちゃんと暮らせて増えてくような環境がすごく重要と考えます。そういう意味で、企業誘致と、外国人の雇用と、駅前の魅力向上、この3つが一番重要なポイントだと思っています。

やれること、できないことはそれぞれ沢山あると思いますが、少しずつ良くしていけば、人口も維持できると思いますし、町もどンドンどンドン魅力的になっていくと思っています。

●松戸市への愛着について、近隣市町村との比較といった視点でお話させていただくと、去年、柏市の若者にインタビューをして、まちのことを知る、という企画をさせていただいたとき、柏好きですかと聞くと「大好きです」と。

その理由が割と明確にあって、多くの若者がホーム感というか、アットホーム感を感じているみたいで、話を聞いてくと、住んでもいるし、買い物とか生活の拠点としてもいい形で完結できているとう点が大きいなと感じました。

同じ質問を松戸市の学生たちにしても「別に」という回答が返ってくるのではないかなという想定がありまして、その辺りが少し弱いのではないかと。流山と柏に人口が移動しているというのはもしかしたらそういう側面もあるのかなと思っています。柏市が相対的に少しオシャレな感じもあるのかなと思う。でも逆にそこは伸びしろかもしれないと思っています。

●一方で、日本の人口を考えると、松戸だけが人口をずっと増加して維持し続けることはいずれ不可能になるとの考えのもと、減っていったとしても維持できるような施策を考え始めてもいいという気がしています。

●雇用経済面で言えば、創業相談についてご報告にありましたように、これだけ創業相談件数が多くなっているということで、松戸で創業して松戸で働く人とか、もしくは松戸で創業した人たちが雇用を生む仕組みをもう少しテコ入れしてもいいと思います。結果的にそれがすごく魅力となり、活気が溢れてくると思います。松戸にあるショッピングモールにも、松戸で起業した人のお店がどンドン入ってくるようにする、それが一番理想ではでしょうか。

●外国人支援の関係では、K P Iの中には外国人の支援に関するK P Iは具体的になか

ったと思いますが、割と地域の草の根レベルだと、その問題がかなり出てきていて、海外ルーツの子たちのキャリアの問題は大きくなっていて、人口48万いる中の、何百みたいな感じかもしれませんが、今後のことを考えると課題になってくると思っています。

●市民活動レベルでは、外国人の子どもたちに対して手を差し伸べる団体も松戸にもたくさんありまして、高校中退率が非常に高いとか、そのあとちょっと夜の世界に入ってしまうみたいな感じの負のループから抜け出せない、あまり貧困のループから抜け出せない子たちが、ものすごく増えてきている一方で、入国管理局ができたというお話もありましたが、せっかくそういった施設ができたのであれば、そこに対して焦点を当てていくことが大事ななと思っています。

地域共生という意味でも、外国人の方々と一緒に松戸で暮らしていくために重要な視点だと思います。行政としてリソースや財源が少なくなる中で、地域の社会課題に主として取り組む人たちは恐らく市民活動の人たちとか、市民の人たちの力を借りざるをえないと思います。

●そうしたときに、市の財源だけではなくて寄付文化を広げようとか、いろんな取り組みがあると思います。ファンドレイズを自分たちでやりながら市の課題に貢献するような動きもたくさんあると思いますし、私も市民活動畑ですから、良く見えているのかもしれませんが、間違いなく県内で、市民活動の活性度合いは非常に高い、それは松戸市の大きな強みだと思います。その点ももう少しフォーカスして、地域活躍塾の受講生が多いところもあるので、そういった人たちとの協働連携、もしくは育成の強化みたいなものも、市では既に取り組みされていると思いますが、そこは改めてまた、力を入れてもいいのではないかと感じました。

●松戸市総合計画の基本目標について、子育て・教育・文化から始まって、高齢者障害・健康福祉、まちの再生・リニューアル、雇用創出・経済活性化、防犯、SDGs、千葉県でも同じように課題解決に向けた総合計画が推進されているわけでありましてけれども、冒頭に人口動態の考察について伺い、少子高齢化が着実に進んでいます。一方で、コロナ等の社会経済情勢も日々刻々と変化しています。このような中でもいろんな方がいらして、価値もそれぞれございます。

取り組むべき課題というのが沢山あります。

松戸市が直面する課題は千葉県とも共有していく必要があります。

東京都をはじめ、首都圏でそれぞれ政策をいろいろと打っていますので、相乗効果を発揮できるように、一緒にやっていければなと思っています。

●経済関係の項目についてお話をさせていただくと、松戸市はここ何年かで、例えば常磐線の上野東京ラインが開通したり、或いは東京外かく環状道路の千葉区間が全線開通して、松戸ICができたり、交通インフラがかなり進化していて、その関係で、例えば工業団地の地価が上昇したというニュースを見たりしました。また、ソフト面では、子育て

関係、非常に施策が充実しているというのは、新聞記事等でも拝見していて話題になります。ハードとソフトがバランスよく施策として、今、うまくかみ合っているのかな、という印象があるので、今後はさらに産業誘致・企業誘致による雇用創出が実現されればと考えています。産業誘致に関しては、今お隣の流山市には、大型の物流拠点がかなり進出してきていますけども、どちらかという物流施設よりも多くの雇用創出に繋がる、製造業や工場関係がどんどん進出してきてもらおうと良いかなと思っています。

●大相撲で琴ノ若関が大関に昇進されましたけれども、松戸はどちらかというプロスポーツの誘致というか、そういったコンテンツが弱いのかなというふうに言われていますので、プロスポーツの誘致をすることによって、市外から、松戸市にいらっしゃる方を増やすという施策にも繋がると思います。

箱物ではありませんが、大型のアリーナとかを建設することによって、人流が変わってくると考えています。

●個別の数値目標・KPIで言えば、無電柱化の整備率の目標値は1%程度では個人的に低いのかなという印象があり、希望的観測でもうちょっと上積みをしてはどうかと思いました。

●KPIふるさと納税の寄付件数に言及いたしますと、こちら上昇しているわけですが、どちらかという、市外の方が松戸市に対して寄付をしているよりも、松戸市民の方が他の市町村に対してふるさと納税をしている方が多いと考えていて、要するに市民税が流出しているわけですが、その収支のバランスがどうなっているのかという点が気になりました。

●資料3「松戸市総合計画 令和4年度 指標の達成状況」15ページのKPIのNo.4「幼稚園在園児童のうち預かり保育を利用している児童の割合」は目標値を達成しています。幼稚園は保育所と違い教育をすることがメインで、預かり保育は幼稚園のそもそもの趣旨とは異なるなか、目標値達成にまで至ったのはやはり担当課の課長をはじめとした担当職員の努力が大きいと感じています。松戸市の職員が頑張っているということは、出席者の皆様においてもぜひ色々なところでお伝えいただければと思います。

●個人的な懸念点としては、松戸市の子ども政策は、健常児の一般家庭に向けたものが中心である点です。障害児や虐待等で施設に預けられている社会的養護の子供、子供を巡るいじめに対する政策についても充実させていくことが非常に重要になります。

●資料3「松戸市総合計画 令和4年度 指標の達成状況」16ページのKPIのNo.11「児童家庭相談受付件数（内児童虐待相談受付件数）」も書いてありますが、松戸市はいろいろなところに取り組んでいくのだと感じ、それらの取り組みに私も協力しなくてはいけないと思っています。

●合計特殊出生率が 1.10 ということで、とても低い数です。1.10 ということは、夫婦（2人）から子供が1人ということから人口が半分になるのはもう目に見えているわけです。そういう意味では、子ども政策の前提としては、「合計特殊出生率をどう上げようか。」という話になると思います。結婚相談所を増やす等頑張っておられるが、なかなか結果を結んでいないというのは残念だと思います。産婦人科が少ない都市は出産を契機に他市に移住してしまうという話をきいたこともありますので、そういった子供を産み・育てる環境を充実させていくことは大変重要であると感じています。

●前の方がおっしゃったように、松戸市民のシビックプライドの醸成が必要であると思います。松戸市出身の有名人はマツモトキヨシ元市長はじめ多岐に渡ります。埼玉県吉川市の市長も松戸市の出身だそうです。こうした方々を松戸市が公式に多くの市民に幅広く知らせる取り組みは子どもの教育の視点でも重要と考えます。

●弊社では、昨年10月に「一人一人の思いをもっと実現できる地域社会にする。」という経営理念（パーパス）を決め、各エリアで地域の銀行として何ができるのかと考えるにあたり、松戸市総合計画を読み込み参考としました。松戸市として取り組んでいることは多岐に渡っていると思います。

●これまでに関わりのあった市川市や千葉市との比較で考えると、松戸市には高いポテンシャルを感じていますが、松戸支店のあるエリアを含めて、松戸駅周辺が少し寂しい感じがしていて、もったいないと感じます。

市制施行 80 周年という古い歴史がある街だからこその難しさがあると思います。その中で、松戸駅もそうですし、今、新松戸駅や北小金駅周辺の再開発の話がありますが、駅周辺を変えてくことによって、また魅力が増す部分があるのではないかと感じています。銀行としてできることとしてキーワードを「新陳代謝」とし、事業承継、M&Aでまずお力添えになればというところと、個人の方々の相続関係にフォーカスしています。

●スタートアップ「ビジまど」の話もありましたが、松戸市で開業を希望する方の支援ができると思っています。会社が大きくなっていけば雇用も増えて、まちが活性化すると思うので、市役所、商工会議所と力を合わせてやっていきたいと思っています。他のエリアに比べると松戸市の方は繋がりが強く、松戸市のことを考えている人が多いように感じています。ただ一方で先ほどお話があったように、若者の松戸愛が形作られていくことで、より盛り上がっていくのではないかとこの感覚がありますので、そのような形で何かお力になればと思っています。

●私の専門分野はまちの空間やオープンスペースの利活用です。今回、その視点からの話になりますが、まず話を伺って印象的だったことは地域活動をしている方が多く、本

当に面白い活動をしている方が沢山いることです。

京都に加賀ホテルというアーティストインレジデンスを兼ねているホテルがあり、先日泊まってとても好きになったのですが、昨日たまたまパラダイス・エアの方と同じ委員会に出ている、加賀ホテルを話題に出したところ、「アドバイスを聞きに来てくれたので色々教えてあげました。」と言って、そのようなところからも松戸市は発信力や指導力を持っているまちであると感じました。

●都市空間の話になると、どこか目的地を作って歩けるようにするという方向性になりがちですが、滞留する、立ち止まっても良い場所をどれだけ増やせるかということも大事な気がしています。そうすると、先ほどの話にどう繋がるかということ、京都の町中では立ち話をしている人が多く、挨拶をしているところや、アートイベントを開催しているところをみていると、何か仲間に入りたくなるというか、そこで承認されたいかなという思いが出てきますね。

すごい人たちがいて、自分もその人たちと一緒に地域で活動している仲間であるというように見られることが、シビックプライドにつながることもあると思います。一足飛びにはできないことかもしれませんが、そういう活動の舞台となるような都市空間を小さいところでも創ることで随分違ってくるのではないかと思います。安心して立ち止まれる空間が本当に必要だと思います。

●昨年度は新拠点ゾーンについて、今年度は文化施設について携わりましたが、駅前というのは、いろいろな人の情報が集まってそこで人が育って、その人たちがまちの内外で活躍してまた派生しているみたいな、そのような雰囲気が見えるような方向を目指すという話をしていきます。

人の活動や交流循環の見える化をしていく必要があると思います。新しく来た人が、その魅力が分かる形をどのように作っていくかということが重要であると感じています。

●松戸駅のそばには坂川や江戸川があるので、魅力として入れていかないと損だと思います。小さい川はかなり改善されて、活動が始まっている感じがしますが、大きい川の方に向けても、みんなが「これがあるからいいよね。」という気持ちになれるような関係をどのように作るのかということです。

千葉大学の松戸キャンパスも庭園群で歴史的価値があります。明治時代からありますが、それが持ち腐れになってしまっていると感じています。最近は教員でグループを組んで、庭園群を活用した保健医療や、メンタルケアの空間というプログラムを作って、松戸市と何か連携できないかといった話もしています。このように資源を皆さんと一緒に上手に使いこなしていくことが大事であると感じています。

●今般の懇談会の資料では松戸市が多様な取り組みをしているということを知りました。また住んでいながら、知らないことが沢山ありました。自分が関心を持つことも必要ですが、松戸市の魅力を発信するところについて、もう少し検討の余地があると感じ

ました。

●松戸という地域にある学部としては、もう少し積極的に松戸市と連携していきたいと思いますが、大学側は、財源的に厳しい部分などがあり、何かしら大学としてのメリットがないと動きづらいというところが歯がゆいところです。

訪問介護等は今の人口動向などを見ますと、大学として益々力を入れていく必要があると感じました。

●ふるさと納税の話で受け入れと流出のどちらが多いかという話がありましたけれど、流出の方が多いのではないかと感覚として思っています。

ある市区町村では、地元にある大学と協定を結び、ふるさと納税制度を活用して大学を支援するという取り組みを行っています。

市区町村へのふるさと納税を通じて大学を支援できるというもので、寄付金額のうち市区町村が受け取る割合と大学が受け取る割合を定めて、定められた割合分を大学が受け取ることができるものです。松戸市には日本大学松戸歯学部と、千葉大学、流通経済大学、聖徳大学の4大学があります。母校のために使っていただくというような感覚で納税してくれる人もいますので、導入についてご検討いただければと思います。

●地域への愛着という視点で、若者のシビックプライドの醸成については常日頃課題と認識して様々な取り組みを進めています。

松戸市は東京駅や品川駅までのアクセスも良いので、入ってくる人は外国人も含めてとても多いです。ただ、出て行く人も多くいます。転入と転出の量はどちらも多いです。

●松戸市はホスピタリティに溢れていて、新住民と旧住民の争いもなく、とても良いまちであると思っています。ただ、「松戸が大好き」、「松戸の〇〇が好き」というところが欠けていることは弱点だと認識しています。それでもいつまでも弱点にしておくわけにはいかないので、今日もお配りしましたが「松戸市×晴耕雨読」といったフリーペーパーの作成等、若い方に対して訴求する取り組みを一生懸命やっています。

この「晴耕雨読」が外部にはとても受けが良いのですが、地元の人たちに松戸市のことを好きになってもらうための取り組みをしていかななくてはならないと思っています。誰をターゲットに取り組みを行うかとなった時に、最近力を入れているのは高校生に対しての働きかけです。高校生に対して、居場所づくりやSDGsの観点で働きかけており、手ごたえを感じ始めているところです。色々な文献を見ましたら、高校等、学生時代を過ごした地域に対して愛着が湧くことが多く、就職時等にまた戻ってきたいと思う傾向が高くなるそうです。

実際市役所の中でも松戸市の高校に通っていたから、松戸市に入庁した人も多いです。やはり高校生や大学生等の若い人たちに向けた取り組みに注力していきたいと思います。

●松戸市は緑や自然を愛する人の方が多いまちだと私は思います。実は市街化調整区域が東京都に隣接している市でこれだけ残っているまちは珍しく、貴重であると思っています。先ほど川の活用の話がありましたが、川に行くと野鳥が沢山います。繁華街を目指すというよりは、自然と調和しているまちであることが大事だと思っています。

●労働力不足のお話がありましたが、松戸市には、まだまだ人が沢山いらっしゃるの、人材が不足している分野については、松戸市としてもその仕事のPRを行う等、松戸市で働いていただけるような取り組みを検討していければと考えています。

●市内に4つの大学があることが大きな魅力の1つとなっており、それだけで何万人という、若い人たちが毎年松戸市に来てくれていると思います。大学生は住民基本台帳には登録されない方が多いそうなので、現在の住民基本台帳人口は50万人弱ですが、住民基本台帳に登録されていないけれども松戸市に住んでいらっしゃる方を入れれば50万人を超えていると思っています。そういった中で、大学生の方にも松戸で学んでいるということをより意識してもらえるように、「晴耕雨読」といったフリーペーパーを、大学に置いていただく等、地道なこともやっていきたいと考えています。

●プロスポーツについて、佐渡ヶ嶽部屋の琴ノ若関が大関への昇進を果たされ、大相撲の佐渡ヶ嶽部屋が松戸にあるということを再認識した中で、NHKのニュースで「千葉県松戸市出身の琴ノ若関」と何度も読まれていて、あれだけでどれだけのPR効果があるのだろうと思いました。俳優の阿部サダヲさん等、松戸市出身の有名な方は沢山いらっしゃいますし、松戸市ゆかりの方も大勢いらっしゃるの、そういう方々が、松戸の星になっていただけるようにプロモーションをしていきたいと思っています。

●町会の加入率もこんなに都市化しているにもかかわらず7割ぐらいあります。それは素晴らしいことで、やはり地域コミュニティが強いということは、松戸市の特徴だと思っています。松戸市のことを、あまり熱く言わない方も、小金のことだったら、六実のことだったら、五香が凄い、矢切が凄いといった地域に愛着を持っている市民の方も大勢いらっしゃいます。ですから、そういった松戸市の特性、地域性というの踏まえながら、募金や寄付の文化を育てていかななくてはいけないと考えています。

●ふるさと納税についてですが、皆様の予想通りやはり流出の方が多いです。しかし松戸市への寄付も資料3「松戸市総合計画 令和4年度 指標の達成状況」37ページのKPIのNo.166「ふるさと納税の寄付件数（市内外在住個人寄付者）」の通り、順調に伸びてきております。

また、昨年からは企業版のふるさと納税をやらせていただいておりますが、今の段階でも1000万円以上寄付がありました。松戸市内に本社がない企業が松戸市に寄付していただける制度です。

●松戸市の一番の課題としましては、町並みが古いというところです。まちづくりはどうしても時間がかかってしまうもので、焦っても仕方がないですが、市民の皆様には進捗状況を見せていけるように、ご説明しながらやっていきたいと思っています。現在松戸駅の改良工事が行われておりますが、工事が完了すると駅のイメージも変わってくるのではないかと考えています。まちづくりには時間がかかりますので、根気強く、松戸市のまちづくりは2巡目だと思っていますので、更新していく際は、今仕様になるようにしていかないといけないと思っています。

●実は松戸市は医療従事者が多いまちであることが統計から分かっております。市内には松戸市立総合医療センター、新東京病院、千葉西病院、新松戸中央総合病院といった大きい病院が多くございます。

ですので、医療資源は少なくないと認識しています。高齢者施設も多いです。また幼児教育も充実していると思っています。教育産業と言ったら怒られてしまうかもしれないですけど、大切な産業であると思います。塾、スーパーマーケット、郵便局の数が多いいったところも便利なところであると思います。

ただ、先ほどから話に出ているように何が強いのか、何を押すのかというところが少し弱いと思っています。

●「晴耕雨読」等を見て、「松戸いいな」と思った人たちが集える空間があるといいと思います。例えば「晴耕雨読」に載っている人に会えるみたいなことがあると嬉しいです。緑豊かなところを発信していく方がまちとしてブランド化できると思いました。緑と市民活動の両方があるまちというのはとても魅力的なはずです。

●「晴耕雨読」の掲載人物については問い合わせがあればご案内できますし、松戸市は市民活動がとても盛んなので、市民活動サポートセンターとかそういったところにお問い合わせが来る場合もありますし、色々な場所でお応えできるようにしていきたいと思っています。

顔が見えるようなネットワーク、人の集積を生かせるまちでないといけないと思っています。このような会も非常に大事だと思っています。

●松戸市には大きなバンケット、施設が市内にあると良いと思います。松戸市は収容人数が多い施設がないので、多くの団体が柏に行ってしまうと思います。

●100人以上収容できる駅近くの場所で探すと松戸には施設がなく、柏に行ってしまうと思います。100人程度で何か催しをすることになったときに、松戸にお金を落としたいとなっても、場所がなく、柏に行ってしまうと思います。

●大きな催しができるホテルみたいな施設がないところは少々歯がゆく感じます。ただ

全てを市内で賄うこと現実的に難しいと感じているので、常磐線沿線エリアとして活性化していくことも良いことであると思っています。

松戸市は近隣 10 市を管轄するちば北西部消防指令センターが中央消防署内に整備されていることや、医療が充実していることといった生活に必要な施設の充実度は近隣市と比較して強いと感じています。しかしいわゆるハレの場に関しては少し弱いと感じています。

●地域毎にブランディングを高めていくのは、正解だと思います。松戸は自然、緑に関する市民活動が盛んで、中間支援のコーディネーターが松戸市民活動サポートセンターに 8 名ぐらいいらっしゃるのですが、他市と比較すると非常に多いです。他市ではそういう人材がなかなかなくて、県南の方では、センターすら建てられない状況なのに、かなり優秀なコーディネーターが 8 名も揃っているまちは松戸市しかないと思います。松戸に対する思いが強い人、都市部に近いので移り住んできてコーディネーターになるような人が多いと思います。あとは地域活躍塾で面白い人が見つかって、その人がコーディネーターになっているみたいです。市民活動においては間違いなく、全国的に見てもかなり強いです。緑もそうですけど、市民活動の気運を高めていくのも良いと思います。

●市民活動については若い人が頑張ろうとするのを邪魔しない文化が重要かなと思います。昔からいらっしゃる方の自負もあると思うのですが、若者の台頭を邪魔しない文化をどのように作っていくかが大事だと思っています。若い人とシニアの人が融和していくまちになればいいと思います。市民活動の分野が強いまちなので、より強化していくと松戸ならではの良さが出せると思います。

4 事務局からの報告

○ 事務局説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

以上